

都市再生の推進に係る有識者ボード 防災WG
議事概要

日時：平成24年3月12日（月）18：00～20：00

場所：永田町合同庁舎7階特別会議室

議事概要：

1. 開会
2. 人口・機能が集積したエリアの防災機能の強化に係る調査研究について
3. 今後のスケジュール
4. 閉会

議事要旨：

<人口・機能が集積したエリアの防災機能の強化に係る調査研究に関する討議>

- 企業がエリア防災に取り組む発意をうまく取り出せるような仕組みが必要である。
- エリア内の企業のBCPを支える、BCPの限界をカバーするのがエリア防災計画だと認識してもらえれば企業がエリア防災に取り組む動機づけになる。
- エリア防災の仕組みは継続することが重要。継続できないような内容を最初から目指すのではなく、軽い内容から始めて継続する中で徐々に充実させていくことが重要である。
- 災害時に現状がもたらす混乱状況等を共有できれば、地域の取組も進むと考えられる。
- 災害時のエリアの混乱が無いとか、短くなれば、企業は事業継続の取り組みを進めることができるので、エリア防災計画に取り組む動機になる。
- エリア防災への参加者の意識の方向付けを揃えることが重要である。
- エリア防災の考える上でのポイントの一つは、人の生死に関わるもの（人的被害の抑制）であるので、そのために各企業が持ち寄れるものを整理することも重要である。
- 手引きでは、推進体制運営のルールの設定の仕方について、丁寧に記載する必要がある。

- 手引きでは、ミニマムの内容とフルスペックの内容を示しながら、ミニマムの内容からでも取り組みを勧めることが大事である。
- シミュレーションのような情報を地域に提供するときは、地域の人たちが自分たちのことだと感じられるような提供の仕方にする必要がある。
- 手引きでは、エリア防災計画が地域の人たちにメリットになるということが分かるような記載が必要である。
- 平時の組織体制を災害時の組織体制にリンクする方がうまく機能することも触れる必要がある。
- エリア内の事業者の運命共同体意識の醸成が重要である。
- 企業やビル、街区という枠を超えて、皆で一緒にやる意義があることをきちんと示すことが重要である。
- 皆で活動することにより、結果として地域が更に発展していくのだということを示す必要がある。
- エリアの現状を確認するためのシミュレーションは、行政が予め準備すべきものと考えられる。